

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成 27 年 3 月 13 日
主管学校名	愛媛大学附属高等学校
P T A 会長名	大野 伸介

実施概要	主管校	愛媛大学附属高等学校		
	交流校	愛媛大学教育学部附属特別支援学校		
	実施活動名	みかんの家交流作業		
	実施日時	平成 27 年 2 月 11 日 (水) 10 : 00 ~ 13 : 00		
	実施場所	愛媛大学教育学部附属特別支援学校の日常生活訓練棟「みかんの家」		
	実施目的	本校 P T A 活動及び生徒のボランティア活動の一環として、愛媛大学の附属特別支援学校にある農園の整備や果樹の剪定を、特別支援学校 P T A ならびに児童生徒と協力して行い、交流活動を通じて、特別支援学校への理解や啓発を図るとともに、両校 P T A 会員同士の親睦を深める。		
	実施内容	竹林の手入れ 農園周囲の溝掘り 豚汁づくり		
実施方法	両校の保護者・教員・児童生徒を 3 つの班に分け、作業交流を行う。 作業終了後、慰労を兼ねて、全員で昼食をとりながら交流を深める。			
参加人数	本校 P T A 会員および特別支援学校との交流を希望する本校生徒・教職員	計 33 名		
	特別支援学校 P T A 会員・児童生徒・教職員	計 78 名		
	マイスター倶楽部代表	計 2 名		
			参加者合計 113 名	

報告事項	内容	10 : 00 「みかんの家」集合 対面式 作業分担 10 : 15 ~ 作業交流 (竹林の手入れ, 農園周囲の溝掘り, 豚汁づくり) 12 : 00 ~ 昼食をとりながら交流 13 : 00 解散	
	結果	<p>開会行事では、特別支援学校山上副校長、本校壽校長、本校大野 P T A 会長、マイスター倶楽部平塚代表より挨拶がありました。そのあと、竹林の手入れ、農園周囲の溝掘り、豚汁づくりの 3 つの作業について説明があり、それぞれに本校生徒と特別支援学校の生徒が分かれましました。各分担当場所で簡単に自己紹介をしたあと、作業交流を開始しました。</p> <p>竹林の手入れでは、あらかじめ伐採しておいた竹や木の枝を払い落とし、払い落とした枝葉の運搬を行いました。農園周囲の溝掘りでは、溝の落ち葉や土砂を畑に戻す作業を行いました。どちらも大変な作業ではありましたが、両校の生徒同士が声をかけ合い、協力し合いながら作業しました。豚汁づくりでは、両校の生徒 3 名ずつが協力して、昼食会場の設営や豚汁づくり、昼食の運搬を行いました。</p> <p>作業交流が一段落したところで、「みかんの家」において昼食をとりながら交流しました。具だくさんの温かい豚汁を食べながら、心も体もほくほくになる交流となりました。</p>	
			
		作業グループ内で自己紹介をしています	協力して作業中



声をかける本校生徒



竹の枝葉を流れ作業で運搬



作業の中で楽しく交流



たくさんの具材を切っています



食事の準備ができるまで談笑中

所感

交流会当日は雨が心配されましたが、予定どおりの日程で作業を行うことができました。
 本校生徒は、最初どのように話しかければよいのか戸惑っていた様子でした。特別支援学校の生徒の方が積極的で、自分の消極的な面を反省している生徒がたくさんいました。しかし、昨年度に続き2回目の参加となる生徒は、反省を活かし、積極的に交流できていました。昨年度の交流会で得た経験が、今年度の活動で活かされており、この活動の意義を改めて実感することができました。
 一人でも多くの生徒に「共に生き、助け合い、支え合う」ことの大切さを気づかせるため、これからもこの活動を続けていきたいと考えています。

添付書類

レシート添付用紙、保護者・生徒の感想は別便で郵送させていただきます。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月 日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年

私は、2年生で初めて「みかんの家」に参加しました。

私は、少し人見知りをしてしまうところがあるので、最初は、ちゃんとコミュニケーションを取ることが出来るかな?などと思っていました。ですが、特別支援学校の人たちは、皆良い人たちで、竹を運んだりするときに、案内などをしてくれました。また、みんなまじめに協力しながら作業をしていたので、始めは大量に切り倒してあった竹もすぐに無くなってしまい、新たに竹を切っていました。お昼までには結構長い時間があるなと思いましたが、皆でバケツリレーのように流れ作業で竹を運んだりしていると、あっというまにお昼になってしまいました。

お昼ご飯はお弁当と、お昼担当の方々を作ってくださいました。豚汁でした。私ともう一人の愛附生の席には、小学5年生と中学3年生の姉妹とそのお父さんがいらっしゃいました。そのお父さんはとても優しい方で、娘さんたちに弁当についていた輪ゴムでゲームをしていました。その光景はとても仲良さそうで、みんなかほほえましかったです。女の子は話すのがニガテそうで、昼食時には、少ししか話すことができませんでした。一緒に食べることで楽しくなりました。

今回、はじめて参加した「みかんの家」でしたが、想像以上に良い思い出が、経験ができてよかったです。また、1年生のときにも参加しておけばよかったなとも思っていました。今回学んだことを生かして、これから頑張っていきたいです。

カンガルーシップ活動

共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月 日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年

私は今回、おかの家での交流会で、竹を処理する班に任じられました。

私は今年が初めての参加で、最初は何をすればいいのかもあまり分かっていない状態でした。でも、一緒に作業をしていた特別支援学校の生徒の

男の子や、先生が丁寧に教えて、最後の方にはみんなで楽しんで作業をすることができました。長い竹をのこギリで1m程度の長さに切るときは、どのようにすれば竹が転がらないか、安定するかと一緒に考えました。

昼食のときは、私たちの座ったテーブルには附属高校生が3人と、特別支援学校の男の子2人、そしてその男の子2人のお母さんと同席でした。

男の子2人があまり話さなかったから食べる人ではなかったのですが、昼食のときは作業のときほど交流はできませんでした。

今日の作業で、特別支援学校の生徒たちと以前よりも、仲良くなることができました。来年は恐らく参加できませんが、また特別支援学校の生徒と交流する機会があれば積極的に交流したいと思います。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月 6日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年

私は、今年初めて「みかんの家」に参加させて頂きました。

何をするのか、しりとり部屋せむしに行きました。この日、特別支援学校の先生方がお話を聞かせて下さいました。

溝にはまった落葉を取り除く班と、土をくむ班の2つの班に分かれ、竹を切り、並べる作業を行いました。

私は、竹を並べる作業をしました。切り出した竹を拾って、バケツに入れて下へおろしました。私の前にいた男の子は、手渡しするたびに「お願いしよ」と丁寧に話をしてくれました。

お話を聞いて、先生のお話も面白かった。先生のお話も面白かった。先生のお話も面白かった。先生のお話も面白かった。

食事のときはおかわりという中学二年生の子と、その子の母、お父さんと一緒に食べました。おかわりという会話が面白かった。おかわりという会話が面白かった。

しかし、私と目が合った時、おかわりという目で見てくれたので、笑顔で返すことができました。

少しとどろきました。おかわりという活動が面白かった。おかわりという活動が面白かった。

おかわり、ボランティアの経験が少しづつからだと思うので、参加できるボランティア活動には積極的に参加していきたいと思っています。

今回のボランティアで学んだことを次回に活かしていきたいです。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月 日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年

私は今回この活動に参加して、特別支援学校の友だちと親睦を深めることができました。生活総合Bの授業で今までに何度か特別支援学校の友だちと活動することがありました。その時に仲よく7人7人友達とお弁当と一緒に食べました。一緒に食べながら色々な話をし、うちに今までよりもっと色々なことが言い合えるようになりました。

そして帰るときにはまた会いたいと言ってくれてとても嬉しかったです。

普段の授業ではなかなかこのような活動を通して、

特別支援学校の友達と交流することは、今までとは少し違う面を発見することができ、楽しかったし、距離が縮まったと思います。

竹を切る作業のときも特別支援学校の友だちと一致団結して活動できました。

この活動を通して、特別支援学校の友だちと親睦を深めることができました。そして、附属高校と特別支援学校の絆が深まったと思います。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成27年2月29日
学校名	愛媛大学附属高等学校
学年	2年

私が今回の「みかんの家」で一番心に残ったのは、支援学校の生徒と一対一で会話しながら豚汁を作ったことだ。最初はお互い初対面で緊張をしたものの、すぐに仲良くなっていった。そこで感じさせられたことがたくさんある。

「特別支援学校」と聞くと、言うこと聞かなかったり、暴走したり...というイメージがあった。しかし、私が生活総合Bという授業で支援学校に行くと、少し賑やかではあるが、思っていたものとは全く違っていて、作業に集中した時は見習うべきとも言える集中力を彼らは持っている。今回もそうだった。一緒に作業をした高校一年生の女の子は、じっかりとした口調で喋り、何の不自由もなく作業をすることができた。障害を持っている人には、程度があって、その人のレベルに合った作業をすることが大切だと感じた。他の子は包丁をあまり使わず、混ぜたり、洗い物をさせる...など、できる事はたくさんある。

また、一緒に作業をした女の子と話していると、「三年生がもうすぐ卒業で嫌だ」と言っていた。「卒業して、学校から離れて働くのが嫌だなあ」と言っていた。どんなにこの女の子は学校が好きなんだろうと思った。「好きです!もちろん!」と言われて、志がかけかけた感情。というか純粋なものが胸に込み上げてきた。今回のボランティアでは2つのことを学んだ。

一つ目は、それぞれの個性をわかり合えば、障害などのハンデがある人でも十分作業ができるということ。

二つ目は、支援学校というだけで差別としてはいけないこと。十分私たちと会話できるし、学ぶこともある。

今後も、支援学校に行ける機会があれば行きたいと思った。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月 日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年

私は生活総合日の授業を選択し、これまでその授業の活動の一環として特別支援学校の生徒と交流してまいりました。なのでこのみかんの家の活動をする前から、また生徒と会えることを楽しみにしていました。しかし、実際にみかんの家に行ってみると会ったことのない生徒たちもたくさんおり、仲良くなれるか、うまくコミュニケーションがとれるか不安になりました。ですが、生徒のみなさんは私たちを温かく迎えてくれました。

また、作業を通じても交流を深めることができました。特別支援の生徒さんはみんな1つ1つの作業を一生懸命に丁寧に行っていて、私も見習わなければならぬなと思いました。今回の活動に参加して感じたのが、「共に生きる」ということの大切さです。お互いに足りないところを補って、社会をつくっていくことがこれから必要となってくると思いました。

カンガルーシップ活動

共生プロジェクト参加感想

提出日	平成27年2月 日
学校名	愛媛大学附属高等学校
学年	2年

私は今回の活動に参加させていただき、明日のことを学ばせていただき、ありがとうございます。

私は「いい先生が」できるわけでもないのに、「来てくれてありがとう」「本当に感謝している」といふお言葉を本当に嬉しく感じ、うれしくてともに頑張って申し上げていきたいと思います。

みかんの家に行かなければ、経馬へ行きたいことをできたのと同じに、私の方からお礼を言いたいので、本当にありがとうございます。

愛媛大学附属特別支援学校の子どもたちはとてもみんさんの素直で明るく、真面目でお話を聞いてとても楽しく感じます。作業中でも重くても頑が困難だった時などに、男の子たちが率先して手伝ってくれたり、助けをくれたりしてとても頼りに感じます。協力して仕事をしてみても、みんさんのおかげでとても楽しくできたので嬉しかったです。

ご飯の時にはおいしい豚汁を頂くことができ、体がとてもあたたかくなりました。

おいしいご飯を食べながら、愛媛大学附属特別支援学校の生徒さんの保護者の方々ともお話することができ、とても勉強になる話や、おもしろい話などをたくさんお話していただき、楽しくご飯を食べることができました。

今回の経馬へは自分にとって意義があるもので、いい経験になりました。

本当にありがとうございます。

またこのように機会があれば是非参加したいと思っています。

カンガルーシップ活動

共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月 日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年

今年で2回目の参加でした。去年は小学生の生徒たちとジャンプの
をしました。今年は、高校生の生徒たちと溝の泥をのける作業をし
ました。男の子と一糸者に泥をのけ、女の子たちに土を運んでもらいました。
去年まで男の子がやっていた作業と言っていただけに、やはり本格的な
必要でした。特別支援の生徒たちや、お母さん方と話し合ったから
作業をしたので、とても楽しく感じました。

特別支援の生徒たちは大変な作業にも関わらず、自分か
ら積極的「も、と土を入れて」と言ったり、自分から大変な作
業を手伝いに、行ったりと一生懸命頑張っている姿に、私も
励まされ、楽しく活動できました。私から話しかけると、笑顔
で答えてくれたり、勇気を覚えてうれしそうにしてくれたり
何にたいしても一生懸命で、うれしそうな様子を見て、心が
温かくなりました。生徒たちのお父さんやお母さんたちとも
話してみると、とても明るく話しかけてくれたり、食事のときも
楽しく話しかけたです。最後に感想を言う場面でも、付属
生はほかほか手を挙げてくれたのに対して、発表したいと元気
に手を挙げる姿に感重くなりました。両親の方たちの心の温か
さや、子どもたちにも受け付けているんだと、思いました。
参加するこができて良かったです。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月 日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年

私は高校1年の時に引きつぎ、2回目の「みかんの家」に参加でした。1年の時に参加した時に仲良くなったなっちゃんに会えることを楽しみに参加しました。しかし、作業分担が別々になったので、会えたのは昼食後でした。なっちゃんは私のことを覚えてくれたようで、とてもうれしかったです。

なっちゃんと会えたのは帰る直前の少しの時間になってしまいましたが、今回私が体験した竹の枝の始末作業で、新たに交流できた友達がいます。竹作業は力仕事なので全員男の子で、どうやって話をしたらいいのか、最初はとても不安でした。私は、とた竹の枝を1ヶ所に集めるという役割を任せ、一緒にその作業をしたのは、岡田くんという子でした。

運ばれてきた枝を岡田くんに渡すという流れ作業で、「岡田くん、どうぞー」などといった呼びかけをしていて、声をかけたらふりかいてくれたり、だんだんうちとけていっている感じがして楽しくなりました。途中で、私の友達が一緒に作業をしていた小林くんと、岡田くんにバランスよく枝を渡すように、友達と工夫しながら作業をしました。岡田くんが暇になると木の枝をいじりだしたりしたので、「岡田くん、仕事だよ!」と、して竹の枝を

わたしたり、「ちよと重そうな枝は小林くんお願い、としたり、枝突かかっていたら「ちよと危ないよ」といたりして、しどろいに呼びかけのレポートも増え、昨年最初に会話をせず黙々とやってしまっていた反省を生かしてできたと思います。来年に参加できないのはとても残念ですが、2回の交流で学んだ笑顔で積極的にすることを他の行事でも生かしていきたいと思っております。

カンガルーシップ活動
共生プロジェクト参加感想

提出日	平成27年2月23日
学校名	愛媛大学附属高等学校
学年	2年

私は今回初めておんぐんの家 ボランティアに参加しました。

普段生活総合Bの授業で調理実習をしているので、今回の活動に参加したおんぐんぐんぐんのお昼ご飯の豚汁を作りました。

特別支援学校の生徒のみなさん、先生、保護者のみなさんと談笑しながら、楽しくおいしく豚汁を作ることができました。一緒に豚汁作りをした特別支援学校の子の中には、生活総合Bの活動で交流したことがある子もいたので、お話を聞いたり、「背が伸びたわ!」という会話もすることができました。

お昼ご飯もすごくおいしかったし、おんぐんぐんぐんおしゃべりしながら楽しく食べられました。

特別支援学校のみなさんに、今日の活動の感想を発表してくれれば、すごくいいと思います。自分も負けずにいいところから頑張りたいと思います。

今回の活動は交流会を兼ねたボランティアに参加したのは初めてだったので、すごくいい経験になりました。思い出になりました。

参加できて良かったです。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月19日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年

私は「みかんの家」に参加して、皆が協力して一つの作業に取り組むことの楽しさを感じた。一緒に竹を運ぶ作業をしていた特別支援学校の小林くんは、仕事ができるとすぐに駆けつけて手伝って、それが終わるとまた戻ってきて竹を運ぶというはたらきをしていて、本当にすごいなと尊敬した。

岡田くんは時口、嬉しくなると叫びながら手をたたいて作業を忘れてしまっていたが、その度に特別支援学校の先生が思いきり顔を近づけて手遊びと一緒にして、なだめていた。その慣れた様子から、先生がちゃんと一人一人を理解しようとしていることが伝わってきて、改めて清さを実感した。

“先生”になるためには、生徒と同じ体調で向きあえるような人にならないと務まらないんだと分かった。

声を掛け合いながら作業をして、豚汁やお弁当を皆で食べる中で、特別支援学校の人には皆人に優しく、活い心がないように感じた。私たちは名称のつくほどの「障がい」を持っていないけど、特別支援学校の人たちは自分が持っていないものを持っていて、それはとても大切なことだと思った。

この体験のように、お互いを支えあいながら生きることが出来る社会になってほしいと思う。そのためにも、今回のような交流にどんどん積極的に参加していきたいと思う。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月 日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年

みかんの家に行くと、お昼にみかんと一緒に食べる豚汁作りをしました。

支援学校の子と、お父さんとお母さんに一緒に、豚汁の中に入れる野菜を切ったり、豚汁の中にもろもろ溶かしたりしました。

野菜を切るときには、支援学校の子とお互いの学校の話をしたり、お父さんとお母さんと将来の話をしていながら野菜を切りました。

支援学校の子は野菜を切るときもととで丁度白菜を洗うときも1枚、1枚洗って、ととも手洗が器用なんだなと思いました。

一緒に豚汁をつくらせた女の子は、支援学校の生活の中でクラスに女の子が1人しかいないから、たくさん女の子と話せて嬉しいし、作業を手伝ってくれたり、作業をしている中で話かけてくれることがあるかととも嬉しいと言ってくれてとても嬉しかったです。

はじめはお互い挨拶をして話を話していいが、とか、何の作業があるのか分からなくとあまり会話ができなかったけれど、自分の作業だけに集中するのはなく、近く周りに目を向けて作業して、一言声をかけたり、判らなったりすることでととでより交際の良い作業ができると、お互いの話もしながら一緒に作業することができたと感じる。

みかんと一緒に食べるお昼ごはんのときは、支援学校の子と協力して作った豚汁がおいしくできあがっていて、私も一緒に食べる時もみかんが「おいしい」「おいしい」と言ってくれたので、とてもうれしかったです。

生活総合の授業で支援学校の子たちとは関わったことがあり、今回は2度目の交流だったので、交流の回数が増えるにつれて、会話の量も増え、仲良くなっている気がするのと、また支援学校の子と交流を深めたいと思います。

カンガルーシップ活動

共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月 日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年

私は先日みかんの家のポラテアに参加しました。行く前と対面式の時には「上手く話せるかな。」「何と話しかけよう。」と不安もありました。しかし、作業をしている時には深く考え込まなくても自然と話せていたと思います。作業の内容は私たち高校生が切った木についている葉の束を切り落とし、小学部の子がそれを運んでくるといったものでした。最初は誰にも話しかけれなくて、黙々と手を動かしていました。しばらく経っていると、ひなちゃんという子が先生とかごを持って合いに来てくれました。「はい、ひなちゃん入ーれーてー。」と言いつつ葉の束を先生から渡され、ゆくりとどしたかごがはいはいになりました。そのうち一人で私の所へ戻って来てくれるようになったひなちゃんと会話はなかったけれど2人でかごに葉の束を入れ、それをひなちゃんが運ぶ。小学生の小さな身体で葉の束がたくさん入ったかごは重かったと思います。何度も何度も回復してくれました。他にも、私たち高校生や大人が「はさみで切っていることを素手で手伝ってくれる子。地面がどこほこなせいと同じ所で何度も転けてしまっけと泣いたりせがに葉の束を拾いに来てくれる。古川さんと薬師神さんと近くで作業をしていたのだが、3人ぐらいの小学部の子が拾っては運んであげてくれる。という繰り返して切るほうが追いつけなくて大変でした。そんな小学部の子の元氣張りのおかげで最初山積みになっていた木はみるみるうちに減っていきました。

「豚汁が出来上がりましたよ〜」という声で作業は終了となりました。みかんの家の方、その保護者の方、愛附の子が協力して作ってくれた豚汁は具がたっぷり入っていて、温かくとても美味しかったです。お昼ご飯の時私のテーブルには2人附属支援学校の方がいたのですが、あまり話あことが出来ませんでした。次のような機会があれば自分から積極的に話しかけていくことが大事だなと反省しました。

年生の時に参加したかったけど参加出来なかったみかんの家のポラテアに参加することが出来よかったです。私にとっていい経験となりました。またこういったポラテアがあれば参加したいと思います。

カンガルーシップ活動

共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月 日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年

私は今回、みかんの家に参加するのは初めてでした。ボランティア活動にあり積極的に
でない私にとって、刺激のある体験となりました。最初養護学校の人たちに会った
時、楽しく接することができず、不安でした。しかし、最初一緒に作業をしていくと、
思ったよりもはやく打ち解けてくれて楽しそうにしてくれました。話しかけると、それに笑って
答えてくれたりして不安もとにかへ行きました。私が担当した所は4歳〜6歳くらいの幼
児の所で、元気に、はかばかに作業していました。将来保育士になりたい私にとって、幼児
に対する先生の接し方などを見て泣いている子どもや作業にあてまわっている子どもをどうい
う方法で対処するのか、どういった所を注意して子どものことを見ればいいのか、勉強になりまし
た。それを参考に私も同じように子どもに接するもの、やはり何が思うようにいかなくて先生は
さすがだと思いました。最後の時間になるまで、子どもたちは一生懸命作業しました。最後の
後始末も子どものことを考え先生方がきれいにそうじしていました。常に子どもの事を考えて
いるということは、幼児と接する上でとても重要なのではないかと思います。

昼は、保護者と生徒をつづいた豚汁を食べました。養護学校の人たちと交流をしながら
楽しい時間になりました。将来の夢や今の目標などを話したり、質問したりして、よい交流を
深めることができました。このみかんの家に行く前は、大丈夫だろうか、自分はどう接することができ
るかとても不安だらけでしたが、終えてみて体験して良かったと思いました。仲良く接するた
けでなく、将来の夢と重ねあわせて色々なことを勉強し考えることができた貴重な機会と
なりました。この活動はこれからの私にとってとても大切なものになり、将来のいい参考に
なります。また、もっとこういった活動に積極的に参加したいと思いました。こういった活動
は必ず自分のためになるし、たくさん学ぶことができます。これからもこういった活動には、積極的
に参加し、色々学びたいと思います。養護学校の生徒の皆さんも、私たちとの交流を楽しんで
もらってたらとても嬉しいし、私と同じくらい充実した活動になってくれたら嬉しいです。
これからの目標は子どもを見て気づくこと、どんな状態になっても冷静におちついて対処するこ
とだと思います。将来保育士になるために、今からこういったことを意識して、子どもに接してい
たいです。本当に貴重な活動になりました。

カンガルーシップ活動

共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月 日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年

みかんの家の活動を通して私のこれからの生活について、たくさん学ぶことができました。特別支援学校の子供たちと大きな竹を運んだり、枝を切って運んだり、豚汁を作ってもらったり。普段のなにはないことでも、一生懸命に作業する彼らの姿にとても感動しました。彼らのパワーをもらって私も一生懸命活動することができました。ボランティアに行くまでは、上手なコミュニケーションがとれずかな、きちんと交流できるかなと心配していました。しかし、彼らの積極性に圧倒されるほど、共に一生懸命活動できたことがすくなく良かったです。私はその時、コミュニケーションを上手にとるということ言葉だけが通じ合うのではなく、気持ちなんだと実感しました。とても良い経験でした。

私は、はじめの副会長さんのお話が忘れられないほど印象的でした。それは、「今は共生社会が求められている、当たり前に関わり合い、当たり前で支え合う。」という言葉です。おどく感銘を受けました。本当に助けること、支えることは、何の利益をもとめることではない、日常生活において当たり前のことだということを感じました。特別支援学校の子供たちのボランティアで、子供たちをサポートに行く、という私の考えは間違っていたように思います。助けるのではなくて助け合う、支えるのではなくて支え合う、ということだと思います。小さな言葉の違いかもしれないけれどとても大切なことだと思います。私たち高校生は彼らにたくさんパワーをもらいました。私たちと同じように普通の生活を送ることはむずかしいけれど、彼らの何にでも一生懸命取り組む姿に、私も日々、何事にも頑張ろう、と思いました。特別支援学校の子供たちに学ぶことがたくさんありました。私は、大学で特別支援教育について学習したいと思っています。今回のボランティアのようはとても貴重な経験を生かし、これからの学習につなげ、学んだことを忘れず、日々の生活に生かしていきたいです。まあまあ特別支援教育について学びたいと思います。

カンガルーシップ活動
共生プロジェクト参加感想

提出日	平成27年2月 日
学校名	愛媛大学附属高等学校
学年	2年

今回、授業で特別支援学校の方たちと交流をする機会が多かったことで、とても楽しめました。実際に活動を進めていくと、改めて特別支援学校の方達の良さを見つけることができました。自分の仕事を自ら見つけて、テキパキと働いていたり、積極的に感想を言っていたり... 普通の高校生よりも積極的に素直で素晴らしいと思いました。

昼食の時には、特支の生徒と愛附の生徒がまさって交流をしました。私は、授業の時に仲良くなった女の子とさらに交流を深めました。口前も顔も覚えてくれていて、とても嬉しかったです。

今回の活動を通し、さらに仲を深め、特支の生徒の良さを見つけられたのでいい刺激になりました。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成27年2月 日
学校名	愛媛大学附属高等学校
学年	/ 年

特別支援学校 けんごんの家との交流に参加させていただいて、将来の夢を少し体験することができました。私の夢は特別支援教育に携わる仕事に就くことで、進学の特別支援教育教員養成過程のある大学を希望しています。意思疎通が難しいのが少し心配でしたが、思いを伝えました。けんごんが流しているようなそんなことはなく、一緒に楽しく作業したり、昼食をとったりしました。ただ、少しだけ話すことができず、飲み込めなかったり、そしてそんな彼らの生活をサポートするのが特別支援教育であることを実感しました。

また、けんごんの家の生徒さんご家族の市にお話を聞くこともできました。話すことの大切さ、月々とした子が、何を考えられているのか、何が言いたいのか、私には分かりませんでした。しかし彼女の母親にはそれが分かっていて、早く対処していただきました。そして、彼女のことを嬉しそうに話す姿を見て、この子のことが大好きなんだな、親子の絆はすごいなと思いました。私も支援する立場に立ちたい、親しみを持って接する力に心がけ、彼女の痛みも喜びも理解して分かち合えるような人になりたいです。この活動に参加して、私の将来の見通しを改めて考える良い機会になりました。来年もまたこの活動の参加募集があればぜひ参加したいです。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月20日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 / 年

私は今回、ボランティアをしながら交流するというのが、貴重な体験をさせていただきました。

掃除はおそにある泥や枯れ葉をのける作業をしました。私と同じ高校1年生の人をしました。その人は、お母さんと来て、お母さんが、作業をしようとすると、自分がやると、率先して作業をしていました。とても優しいなと思いました。また、掃除できるところを率先して探し、積極的に掃除をしていました。そして、沢山話しかけてくれたので、とても楽しかったです。

その後の、昼ご飯では、一生懸命働いたんで、とても美味しかったです。昼ご飯の時は、他の生徒のお母さんとお話をさせていただきました。その方のご家族は、毎年ボランティアに参加していて、今年が最後で、とても寂しいとおっしゃっていました。このボランティアで、附属高校生と、交流するのを楽しみにしてくださっているのは、とても嬉しかったです。また、楽しみにしてくれている人がいるので、このようなボランティアに、積極的に参加していこうと思いました。

この交流をとおして、やはり、いろいろな人と話して、他人のことを知ることはとても大切ななと思いました。また積極的に行動したり、人のために何かをやることは、素晴らしいことだと改めて思いました。

またこういう機会があれば参加していきたいです。今回参加していた、方々の意見は、これからの将来とても大切になってくると思います。だから、もっといろいろな人と交流して、沢山話を聞きたいなと思います。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月 日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 1 年

私は最初あり活動内容を知らずに参加をするようにしていましたが、実際に活動を行っていると、「みんなの命」の生徒さんとの交流をしながら活動をしていったので、とても楽しかったんです。

私はスワップで「溝掘り」をするグループでしたが、作業もなかなか大変で最初は作業に集中をしてばかりで交流があまりできていませんでした。ところが途中で一緒に作業をしていた2年生の先輩がふつうに声をたくさんかけてくれたので、それを見ても私も声をかけるようにしたら、ちゃんと会話をする事ができてきました。声をかければ、作業もスムーズに進んでいくように思います。そして、お昼には、保護者の方が作ってくださった温かい豚汁をいただくことができました。食事の時も、楽しくお話をすることができたので良かったです。来年もぜひ参加したいと思いました。

カンガルーシップ活動
共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月//日
学校名 愛媛大学附属高等学校
氏名

今回、私は附属特別支援学校「みかんの家」交流作業に、初めて参加致しました。どのような交流会になるのか少し不安もあったのですが、集合してみると、支援学校の生徒達の明るさと、高校生達の目の輝きに、そんな不安もすっかり無くなりました。

私が加わった班は、竹林から外へ延びて広がり、いる竹を切り倒し、枝を払って処分する作業を行いました。支援学校の生徒達や父兄、先生方と、高校生達が力を合わせ、太い竹を次々と切り倒し、枝をどンドン払ってゆきます。生徒達は寒い中、汗をかきながら「さっきはきと作業をこなし、荒れた山をきれいに片付けます。みんなの歓声と笑顔、そして仕事をやりとげ満足した誇らしい顔。すばらしい。作業の後の昼食では、支援学校生と高校生が協力して作った豚汁を、おいしく頂きました。

私は今回の交流作業に参加出来て、本当に楽しかったです。

カンガルーシップ活動
共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月11日

学校名 愛媛大学附属高等学校

氏名

自己紹介をして、笑顔で、お互いをお互いを知るための会話しあいの交流も
すばらしいですが、道具を持ち、自然を相手に、体を動かすことで
共通の目標を成し遂げる交流も とてもすばらしいと思いました。
身体も心も健康になった気がします。

カンガルーシップ活動
共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年2月16日

学校名 愛媛大学附属高等学校

氏名

附属特別支援学校との交流会について

初めて「みかんの家」の交流作業に参加しました。「作業と交流が上手くできるかな?」と、少し不安になりながら附属高校を出發しました。

作業は3つに別れていて、私は山から切り出した竹の笹の枝を運ぶチームでした。皆で相談して坂の下まで「流れ作業」で笹の枝をリレーすることにしました。特別支援学校の生徒2人も一緒にチームでした。(岡田さんと小林さんだったと思います。)

次の人に枝を渡す時に「ハイ」と声をかけたり、よそ見していたら「笹の枝が来たよ」となるべく話をずらそうと心がけました。作業をしていくうちに次の人が持ちやすいように枝の方向を考えたり渡したり、次の人の目に当たらないようにしたりとだんだんくふうして渡せるようになっていきました。すると最初よりだんだん早く枝のリレーができるようになり、矢張りみんなたちとも協力して作業ができました。単純な作業ですが終わった時には体がポカポカ、心もあたたかくなりました。

倉庫も支援学校の先生・親子・附属高1年女子(2人)といろいろな話ができ良かったです。楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。